

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2000年 9月 4日
Date of Application:

出願番号 特願2000-266912
Application Number:

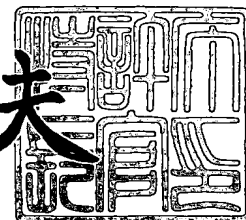
[ST. 10/C]: [JP 2000-266912]

出願人 株式会社フルタイムシステム
Applicant(s):

2003年12月12日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3103604

【書類名】 特許願

【整理番号】 P2000-130

【提出日】 平成12年 9月 4日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B65D 91/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都千代田区岩本町 2 - 1 0 - 1 株式会社フルタイムシステム内

 【氏名】 原 幸一郎

【特許出願人】

 【識別番号】 390005094

 【氏名又は名称】 株式会社フルタイムシステム

【代理人】

 【識別番号】 100081455

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 橘 哲男

 【電話番号】 03-3358-0866

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 029241

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9900357

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子ロッカーシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 荷物を収容するボックスと、

予めロッカーの管理会社とロッカー利用者との契約によって定めたカードを読み取るカードリーダーと、

荷物受取人の会員番号等の指定番号を入力する操作キーと、

荷物の預かり書を発行するプリンタと、

前記ボックス内に荷物があるか否かを検出するセンサと、

該センサが荷物を検出したときにボックスの扉を施錠する電気錠と、

前記カードリーダーによって読み取られたカード番号から預入人と受取人を通信回線を介して、また、読み取られたカード番号が荷物受取人のカードであるときに前記電気錠を解錠するとともに、通信回線を介して荷物預かり料金などの必要な情報を前記通信回線を介してロッカーの管理センターに送出する中央制御装置とを備え、

ロッカーへの荷物の預け入れと取り出しをカードのみによって行なえるようにしたことを特徴とする電子ロッカーシステム。

【請求項 2】 前記指定番号で指定された特定の個人のみが荷物を受け取ることができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の電子ロッカーシステム。

【請求項 3】 前記指定番号で指定された登録グループ内の利用者であれば誰でも荷物を受け取ることができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の電子ロッカーシステム。

【請求項 4】 荷物の預かり料金をカードから自動引き落としするようにしたことを特徴とする請求項 1～3 のいずれかに記載の電子ロッカーシステム。

【請求項 5】 預け入れから取り出しまでの実際の経過時間に基づいて荷物の預かり料金を計算するようにしたことを特徴とする請求項 1～4 のいずれかに記載の電子ロッカーシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、駅構内や宿泊施設などに設置される荷物預け用のロッカーシステムに関し、より詳しくは、従来のコインロッカーで用いられていた施錠・解錠のための鍵を不要とするとともに、ロッカー使用料も通信回線を介してクレジットカードなどで自動決裁できるようにした電子ロッカーシステムに関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来より用いられている荷物預け用のコインロッカーは、空いているボックス内に荷物を入れて扉を閉じ、施錠部に備えられた料金投入口から1日分の基本料金を投入した後、鍵を回して施錠するもので、施錠後の鍵は預け入れ者が携帯し、荷物取り出し時、所持している鍵でボックスを解錠して中の荷物を取り出すものである。

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記したコインロッカーの場合、コインを用いた現金支払いのため、コインの持ち合わせがない場合には利用することができなかった。また、荷物を預け入れたボックスの鍵がないと、ボックスを開けることができないため、荷物を取り出す際は、鍵を持っている者がコインロッカーのある場所まで行くしかなかった。このため、例えばコインロッカーに荷物を預けた者以外の者にロッカーを開けさせて荷物を渡そうとしても、その前に鍵の受け渡しをしなければならず、取り扱いが煩雑で面倒であるという問題があった。

【0004】

また、従来のコインロッカーは、通常、真夜中の午前0時を境として1日単位で追加料金を加算徴収するようにしており、きめ細かな時間管理が行なわれていなかった。このため、例えば、午後11時55分に荷物を預け入れ、午前0時5分に荷物を取り出したような場合、たった10分しか荷物を預けていないにもかかわらず、2日分の料金を徴収されてしまうという不合理な問題もあった。

【0005】

さらに、従来のコインロッカーは、誰でもが自由に荷物を出し入れできるため

、ときによっては危険物を入れる者も現れ、ロッカー運用上の安全性の点で万全とは言い難かった。

【0006】

本発明は、上記のような問題を解決するためになされたもので、その目的とするところは、ロッカーに装備されたカードリーダによってクレジットカード、電子カード、デビットカードなどのカードを読み込ませることにより、荷物の預け入れと取り出しを鍵なしで自在に行なうことができるようにするとともに、ロッカーの使用料も通信回線を介してクレジットカードなどで自動決裁することができ、さらに実際の時間経過に従った実料金を請求できるようにした電子ロッカーシステムを提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明の電子ロッカーシステムは、上記目的を達成するため、予めロッカーの管理会社とロッカー利用者との契約によって定めたカードを読み取るカードリーダと、荷物受取人の会員番号等の指定番号を入力する操作キーと、荷物の預かり書を発行するプリンタと、前記ボックス内に荷物があるか否かを検出するセンサと、該センサが荷物を検出したときにボックスの扉を施錠する電気錠と、前記カードリーダによって読み取られたカード番号から預入人と受取人を通信回線を介して、また、読み取られたカード番号が荷物受取人のカードであるときに前記電気錠を解錠するとともに、通信回線を介して荷物預かり料金などの必要な情報を前記通信回線を介してロッカーの管理センターに送出する中央制御装置とを備え、ロッカーへの荷物の預け入れと取り出しをカードのみによって行なえるようにしたものである。

【0008】

また、前記指定番号で指定された特定の個人のみが荷物を受け取ることができるようにしたものである。

【0009】

また、前記指定番号で指定された登録グループ内の利用者であれば誰でも荷物を受け取ることができるようにしたものである。

【0010】

また、荷物の預かり料金をカードから自動引き落としするようにしたものである。

【0011】

さらに、預け入れから取り出しまでの実際の経過時間に基づいて荷物の預かり料金を計算するようにしたものである。

【0012】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明に係る電子ロッカーシステムの実施の形態について図面を参照して説明する。図1および図2に本発明の第1の実施の形態を示す。図1は実施の形態に係る電子ロッカーシステムの全体構成を示すブロック図、図2はロッカーに内蔵されたコントロールボックスの電気回路のブロック図である。

【0013】

図1において、1は例えば駅構内などに設置された電気錠式のロッカーであって、このロッカー1には、大きさの異なる複数のボックス11と、利用者が荷物の預け入れ・取り出し時に操作するコントロールボックス12が備えられている。このコントロールボックス12は、図2に示すような構成となっている。

【0014】

すなわち、中央制御装置(CPU)12aと、テンキー、解除キー、開始キーなどを含む操作キー12bと、クレジットカード、電子カード、デビットカードなどのカードを読み取るカードリーダ12cと、前記ボックス11内に荷物が収容されたことおよび取り出されたことを検出するセンサ12dと、操作手順などを写し出すモニタ12eと、管理センターAとの交信を行ったり、前記操作手順を音声で説明したりするためのスピーカー12fと、荷物を預かった旨の受領書を印字して発行するプリンタ12gと、ボックス11の施錠・解錠を行なう電気錠12hとが中央制御装置12aに接続されている。

【0015】

図に戻って、Aは公衆または専用電話回線などの通信回線TLを介して前記ロッカー1の中央制御装置12aに接続され、前記ロッカー1の管理を行なう管理

会社の管理センター、Bは前記管理センターAと通信回線TLを介して接続されるクレジットカード、電子カード、デビットカードなどのカードを紛失したり、盗難にあった場合に、当該カーオの加盟店に使用不能の通知を出すとともに、カード使用時において不正使用されることをチェックするカードネットワーク会社、Cは該カードネットワーク会Bと通信回線TLを介して接続された種々のクレジットカード会社や銀行である。

【0016】

次に、上記構成に基づいてロッカー1への荷物の預け入れと取り出し方法について説明する。以下の例では、クレジットカードを用いて荷物の預け入れと取り出しを行なう場合について説明するが、電子カード、デビットカードなどの他のカードについても同様に行なえるものである。

【0017】

まず、荷物の預け入れ方法について、図3を参照して説明する。

なお、本発明の電子ロッカー使用に際しては、ロッカー1の利用者は、予め管理センターAを運営する管理会社に自分のクレジットカードの番号や電話番号など必要な情報を届け出て会員登録を行ない、指定番号である会員番号（携帯電話番号等でもよい）やパスワードなどロッカー利用に必要な情報を入手しているものとする。また、この会員登録に際し、複数の利用者でグループを構成してグループ登録を行なっておけば、以下に述べる説明で明らかなように、指定した個人のみが荷物を受け取ることができるだけでなく、グループ内の誰でもがその荷物を受け取ることができるようにすることもできる。

【0018】

さて、利用者がロッカー1に荷物を預け入れるには、前記会員登録したクレジットカードを前記コントロールボックス12のカードリーダー12cに挿入し、カードを読み込ませる（図3のステップS1）。中央制御装置12aは、カードが挿入されたか否かの判定を行ない（ステップS2）、カードが挿入された場合には当該カードが登録会員のクレジットカードであるか否かを判定する（ステップS3）。

【0019】

登録会員のカードであると判定された場合（ステップS3のYES側）、モニタ12eにパスワードを入力する旨の表示行ない、パスワードの入力を促す。これに応じて利用者がパスワードを入力すると（ステップS4）、中央制御装置12aは、パスワードが正しいか否かを判定し（ステップS5）、正しい場合にはモニタ12eにメニュー選択画面（例えば、「1. 預け入れ、2. 受け取り」など）を表示する（ステップS6）。また、必要に応じて、スピーカ12fから案内音声を流す。

【0020】

この表示に従って、利用者が操作キー12bの数字ボタン「1」を押すと、システムは預け入れモードに設定され、モニタ12eには預け入れた荷物の受取人の指定番号を入力する旨の表示がなされる。この表示に従って、利用者は操作キー12eから荷物の受取人の指定番号を入力する（ステップS7）。

【0021】

なお、この指定番号としては、登録会員の会員番号、予め管理会社に届け出された登録会員の自宅電話番号や携帯電話番号等の電話番号、前記登録された団体番号などが使用される。指定番号として登録会員の会員番号や電話番号が入力された場合には、預け入れた荷物は当該会員番号や電話番号に該当する指定受取人以外はロッカーを開けることができなくなり、一方、指定番号としてグループ番号が入力された場合には、指定されたグループ内の誰であってもロッカーを開けて荷物を受け取ることができるようになる。

【0022】

中央制御装置12aは、前記入力された指定番号が登録されたものであるか否かを判定し（ステップS8）、登録された指定番号である場合には、モニタ12eに預け入れるボックス番号を入力する旨の表示がなされる。この表示に従って、利用者は、預け入れる荷物の大きさに合った空きボックス11を選択し、そのボックス番号を入力する（ステップS9）。

【0023】

中央制御装置12aは、入力されたボックスナンバーが空きボックスのナンバーであるか否かを判定し（ステップS10）、空きボックスのナンバーである場

合には当該空きボックス 12 の電気錠 12 h を解錠し（ステップ S 11）、当該ボックスの扉を開くとともに（ステップ S 12）、当該ボックス内に設置されている荷物の有無を検出するセンサ 12 d を作動開始するとともに、モニタ 12 e に当該ボックスの基本使用料金（1 日分）を表示する（ステップ S 13）。一般に、ロッカー 1 には数種類の大きさのボックス 11 が用意されており、基本使用料金は使用するボックス 12 の大きさによって、例えば 300 円、500 円などと異なる。

【0024】

この状態において、利用者がボックス内に荷物を収容すると（ステップ S 14）、中央制御装置 12 a は、当該ボックス内に荷物が収容されたか否か、すなわち、前記センサ 12 d が荷物を検出したか否かを監視し（ステップ S 15）、荷物が収容されたと判定すると（ステップ S 15 の YES 側）、電気錠 12 h を作動して扉を施錠した後（ステップ S 16）、プリンタ 12 を動作して荷物預け入れ者の氏名、預け入れ日時、ロッカー場所、ボックスナンバー、基本使用料金などを印刷した受領書を発行する（ステップ S 17）。これらのデータは、すべてメモリ 12 i に格納記憶されるとともに、電気錠 12 h の施錠時点から預け入れ経過時間のカウントが開始される。

【0025】

上記のようにして受領書が発行され、経過時間のカウントが開始されると、中央制御装置 12 a は、メモリ 12 i に格納記憶された諸データを通信回線 TL を介して管理センター A に送り、これらのデータは管理センター A 内のコンピュータに記憶される。以上の処理によって荷物の預け入れ操作は完了する。

【0026】

次に、前記預け入れられた荷物の取り出し方法について説明する。

まず最初に、指定された受取人のみが荷物を受け取ることができる場合の受け取り方法について図 4 を参照して説明する。この指定された受取人のみが荷物を受け取ることができる場合とは、前記図 3 の預け入れ動作におけるステップ S 7 において、受取人の指定番号として登録会員個人の会員番号や電話番号などが入力された場合に該当する。

【0027】

前述した荷物の預け入れ者は、〇〇駅構内のロッカーに荷物を預けたことを、指定した荷物受取人に対して電話やEメールなどの必要な手段で連絡する。

【0028】

連絡を受けた受取人は、連絡のあった〇〇駅構内のロッカー設置場所まで行き、会員登録されている自分のクレジットカードをロッカー1のコントロールボックス12のカードリーダー12cに挿入し、カードを読み込ませる（図4のステップS21）。中央制御装置12aは、カードが挿入されたか否かの判定を行ない（ステップS22）、カードが挿入された場合には当該カードのナンバーが指定された荷物受取人のカードナンバーと一致するか否かを判定する（ステップS23）。

【0029】

一致すると判定された場合（ステップS23のYES側）、中央制御装置12aは、預け入れ時点から現在までの経過時間に基づいて、基本使用料金で預け入れ可能な時間（この例の場合、24時間）を越えているか否かを判定する（ステップS24）。

【0030】

越えていない場合には（ステップS24の無し側）、処理はステップS26へ移行する。一方、基本使用料金で預け入れ可能な時間を越えている場合には（ステップS24の有り側）、その超過時間に対応した追加料金を計算した後（ステップS25）、処理はステップS26へと移行する。これによって、実際に荷物を預け入れておいた経過時間に応じた追加料金が加算されるようになり、従来のコインロッカーのように午前0時が過ぎた時点で料金が加算されてしまうという不合理が解消される。

【0031】

処理がステップS26へ移行すると、中央制御装置12aは電気錠12hを解錠し、荷物を預けたナンバー位置のボックス11の扉を開く（ステップS27）。そして、受取人はボックス11内に収容されている荷物を取り出す（ステップS28）。このようにして、従来のコインロッカーのような鍵を必要とすること

なしに、荷物を預けた者以外の者がロッカーを開けて荷物を取り出すことができるようになる。

【0032】

上記のようにして荷物が取り出されると、中央制御装置 12 a は、メモリ 12 12 i に格納された取り出し情報とともに、料金情報を管理センター A に送る。管理センター A は、この送られてきた料金情報を基に、荷物の預け入れ者を宛先とする請求書を通信回線 TL を通じてカードネットワーク会社 B に送信する。

【0033】

カードネットワーク会社 B は、送られてきた請求書を通信回線 TL を通じて該当するクレジット会社 C に送信し、荷物を預け入れた利用者のクレジットカードから基本使用料金と超過料金を引き落とすことにより、ロッカー使用料を自動決済する。これによって、荷物の取り出し操作がすべて完了する。

【0034】

なお、前記動作例の場合、預け入れの超過料金についても荷物を預け入れた利用者のクレジットカードから引き落とすようにしたが、超過料金については荷物を取り出した者のクレジットカードから引き落とすように設定することもできる。すなわち、ステップ S 25 における追加料金計算の後にモニタ 12 e に表示すると共に、カードリーダー 12 c に挿入されているクレジットカードから決裁することもできる。

【0035】

次に、登録したグループ内の誰でも荷物を受け取ることができる場合の受け取り方法について、図 5 を参照して説明する。この登録グループ内の誰でもが荷物を受け取ることができる場合とは、前記図 3 の預け入れ動作におけるステップ S 7 において、受取人の指定番号として登録グループ番号が入力された場合に該当する。

【0036】

前述した荷物の預け入れ者は、〇〇駅構内のロッカーに荷物を預けたことを、指定したグループ内の誰かに、あるいはグループ内の全員に対して電話や E メールなどの必要な手段で連絡する。

【0037】

連絡を受けたグループ内のいずれかの者が、連絡のあった〇〇駅構内のロッカー設置場所まで行き、会員登録されている自分のクレジットカードをロッカー1のコントロールボックス12のカードリーダー12cに挿入し、カードを読み込ませる(図5のステップS31)。中央制御装置12aは、カードが挿入されたか否かの判定を行ない(ステップS32)、カードが挿入された場合には当該カードのナンバーが指定されたグループ内のカードナンバーと一致するか否かを判定する(ステップS33)。

【0038】

一致すると判定された場合(ステップS33のYES側)、中央制御装置12aは、モニタ12eにグループ番号を入力する旨の表示行ない、グループ番号の入力を促す。これに応じてグループ番号を入力すると(ステップS34、S35)、中央制御装置12aは、グループ番号が一致するか否かを判定し(ステップS36)、一致する場合には、預け入れ時点から現在までの経過時間に基づいて、基本使用料金で預け入れ可能な時間を越えているか否かを判定する(ステップS37)。

【0039】

越えていない場合には(ステップS37の無し側)、処理はステップS39へ移行する。一方、基本使用料金で預け入れ可能な時間を越えている場合には(ステップS37の有り側)、その超過時間に対応した追加料金を計算した後(ステップS38)、処理はステップS39へと移行する。

【0040】

処理がステップS39へ移行すると、中央制御装置12aは電気錠12hを解錠し、荷物を預けたナンバー位置のボックス11の扉を開く(ステップS40)。そして、受取人はボックス11内に収容されている荷物を取り出す(ステップS41)。このようにして、従来のコインロッカーのような鍵を必要とすることなしに、グループ内の誰でもがロッカーを開けて荷物を受け取ることができるようになる。

【0041】

上記のようにして荷物が取り出されると、中央制御装置 12 a は、メモリ 12 i に格納された取り出し情報とともに、料金情報を管理センター A に送る。管理センター A は、この送られてきた料金情報を基に、荷物の預け入れ者を宛先とする請求書を通信回線 T L を通じてカードネットワーク会社 B に送信する。

【0042】

カードネットワーク会社 B は、送られてきた請求書を通信回線 T L を通じて該当するクレジット会社や銀行 C に送信し、荷物を預け入れた利用者のクレジットカードから基本使用料金と超過料金を引き落とすことにより、ロッカー使用料を自動決済する。これによって、荷物の取り出し操作がすべて完了する。なお、この場合も、超過料金については荷物を取り出した者のクレジットカードから引き落とすように設定することもできる。

【0043】

なお、前記実施の携帯では、ロッカー 1 を駅構内に設置した場合について説明したが、ロッカー 1 の設置場所はこれに限られるものではなく、例えば宿泊施設など、ロッカーを必要とする場所に設置することができるものである。

【0044】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の電子ロッカーシステムによれば、カード決済によってロッカー使用料を徴収するので、コインの持ち合わせがない場合で利用できる。また、荷物を取り出す際に、従来のコインロッカーのように鍵を持っている者がロッカーのある場所まで行く必要がなくなり、ロッカーに荷物を預けた者以外の者にロッカーを開けさせて荷物を渡すことが可能となる。

【0045】

また、指定番号で指定された特定の個人のみが荷物を受け取ることができるようにしたり、指定番号で指定された登録グループ内の利用者であれば誰でも荷物を受け取ることができるようにできる。

【0046】

また、預け入れから取り出しまでの実際の経過時間に基づいて荷物の預かり料金を計算するので、きめ細かな時間管理を行なうことができ、僅かな時間預けた

だけで複数日分の料金を徴収されてしまうというような不合理も解消できる。

【0047】

さらに、管理会社への登録会員のみが使用することが可能であり、ロッカー運用上の安全性も十分に確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

実施の形態に係る電子ロッカーシステムの全体構成を示すブロック図である。

【図2】

ロッカーに内蔵されたコントロールボックスの電気回路のブロック図である。

【図3】

荷物の預け入れ方法を示すフローチャートである。

【図4】

指定された受取人のみが荷物を受け取ることができる場合の受け取り方法についてフローチャートである。

【図5】

登録したグループ内の誰でも荷物を受け取ることができる場合の受け取り方法についてのフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 ロッカー
- 1 1 ボックス
- 1 2 コントロールボックス
- 1 2 a 中央制御装置（CPU）
- 1 2 b 操作キー
- 1 2 c カードリーダー
- 1 2 d センサ
- 1 2 e モニタ
- 1 2 f スピーカ
- 1 2 g プリンタ
- 1 2 h 電気錠

1 2 i メモリ

A 管理センター

B カードネットワーク会社

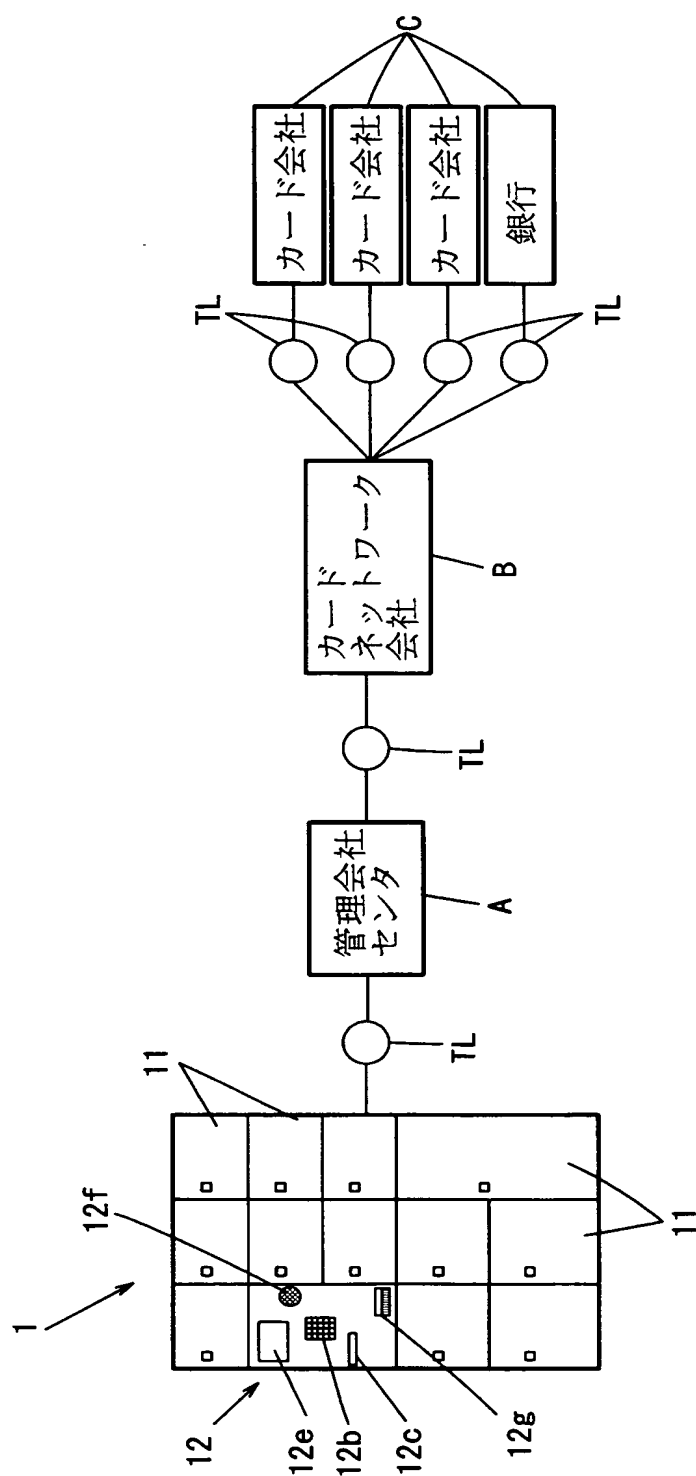
C カード会社または銀行

T L 通信回線

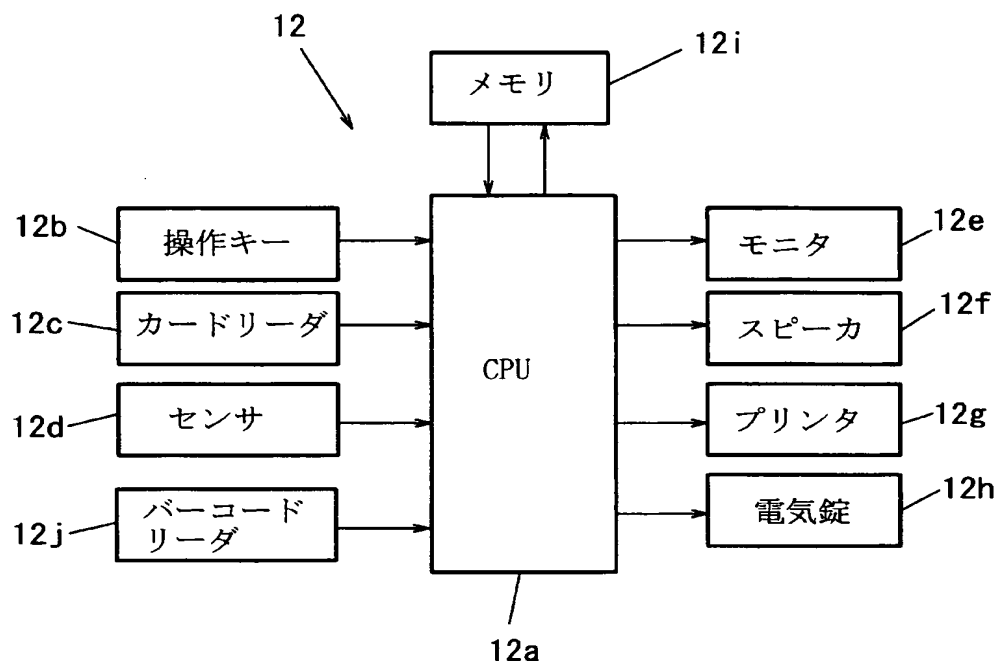
【書類名】

図面

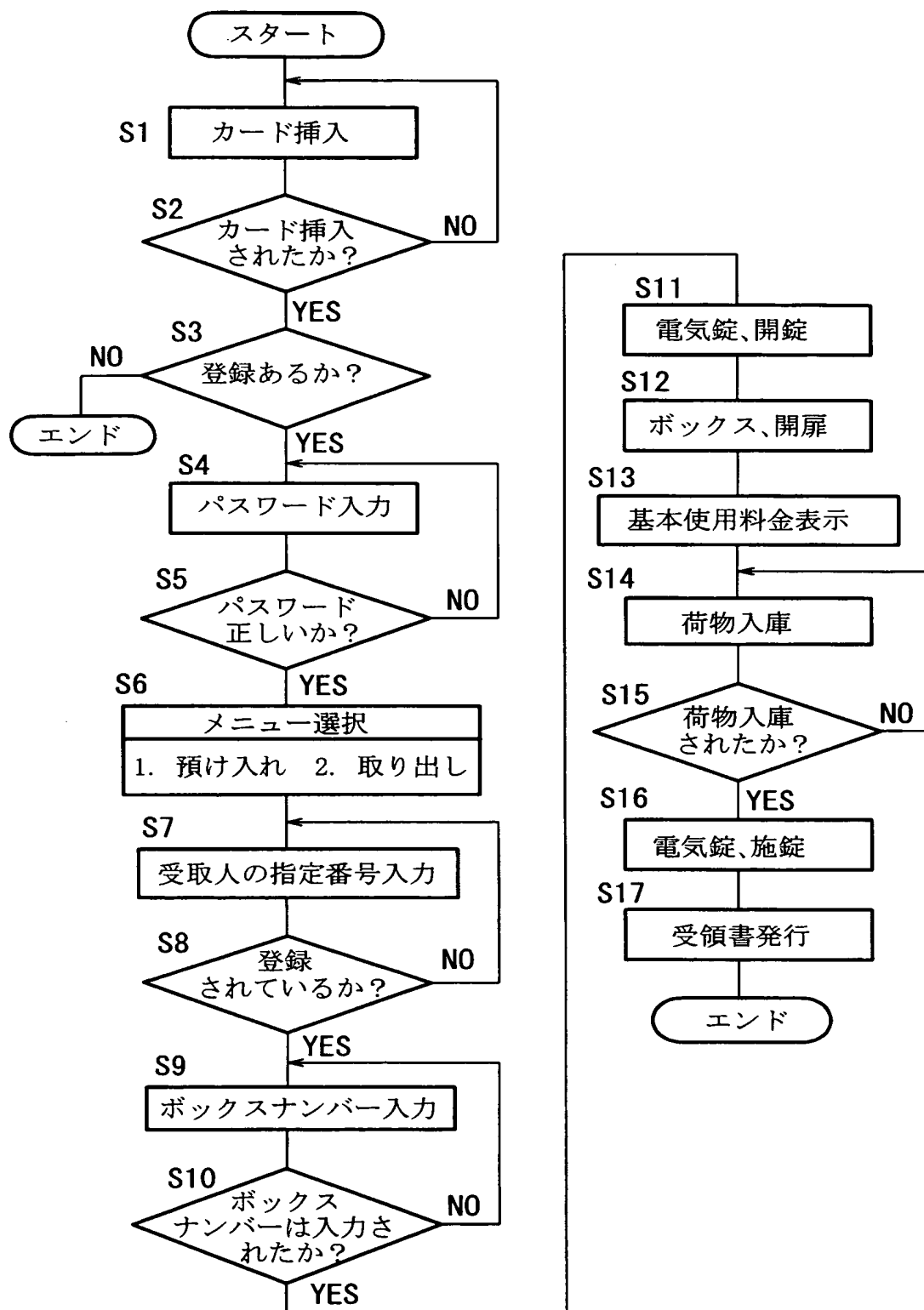
【図 1】



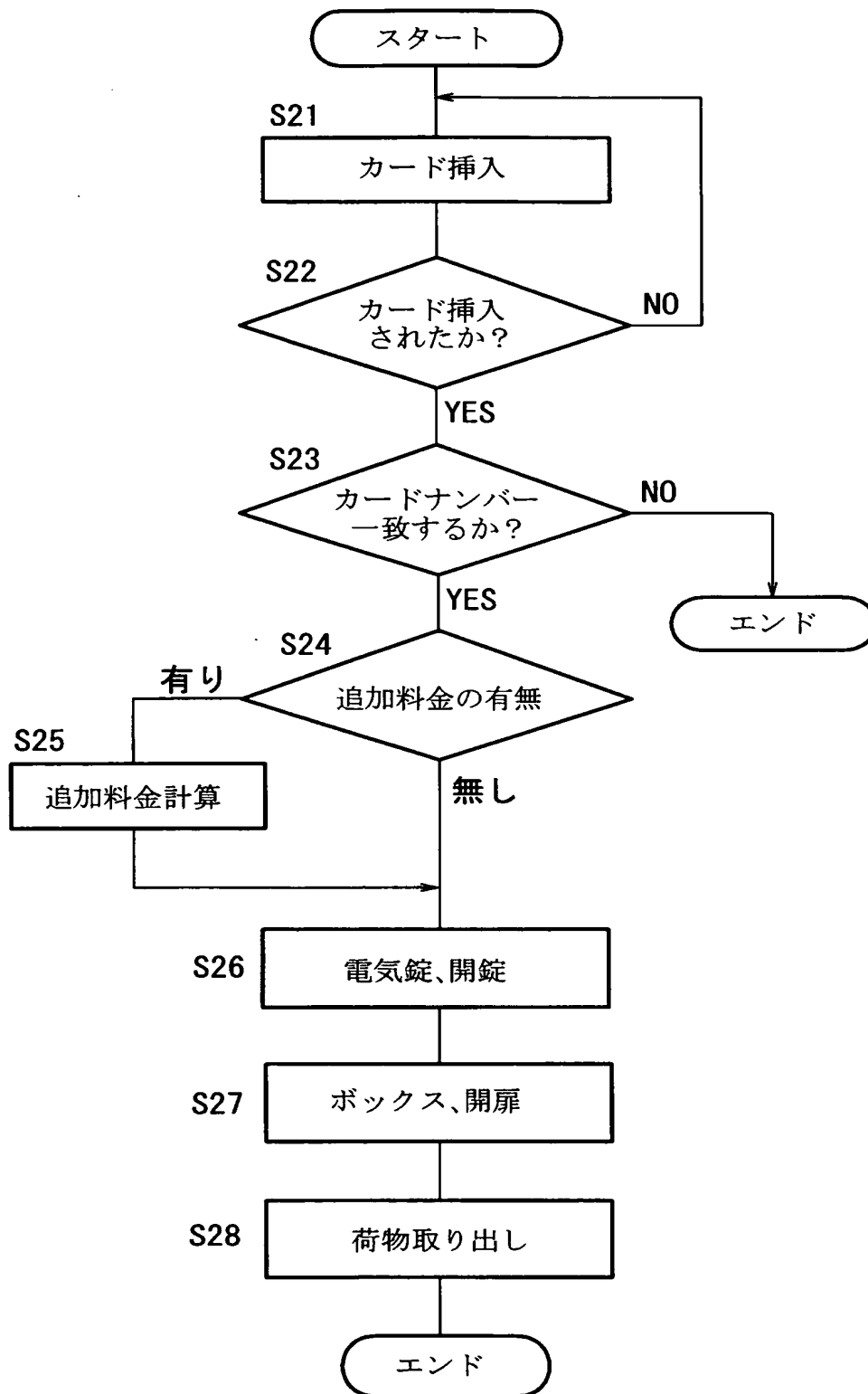
【図 2】



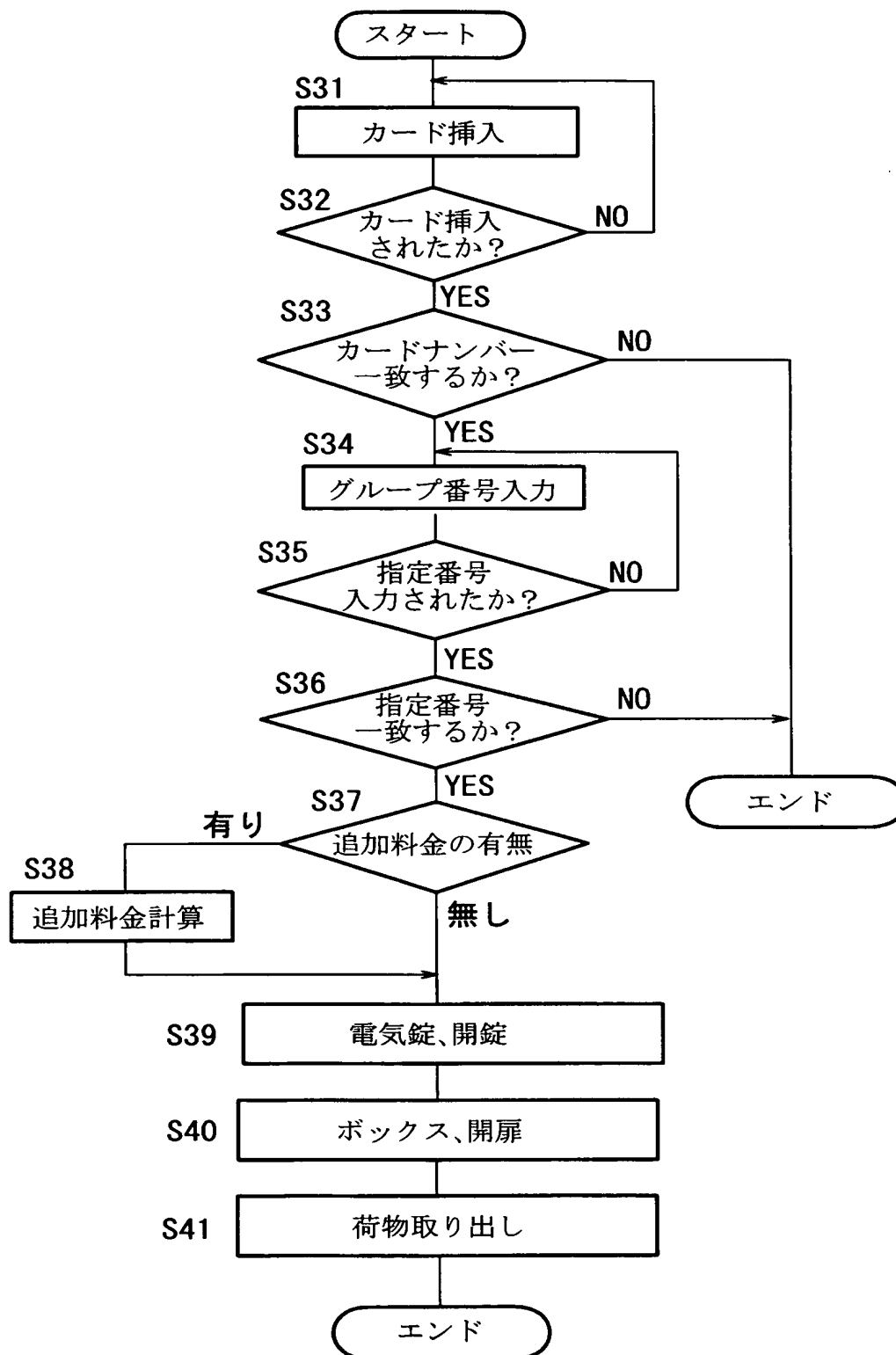
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 コインロッカーで用いられていた施錠・解錠のための鍵を不要とするとともに、ロッカー使用料も通信回線を介してクレジットカードなどで自動決裁できるようにした電子ロッカーシステムを提供する。

【解決手段】 荷物を収容するボックス 11 と、予めロッカー 1 の管理会社とロッカー利用者との契約によって定めたカードを読み取るカードリーダー 12c と、荷物受取人の指定番号を入力する操作キー 12b と、荷物の預かり書を発行するプリンタ 12g と、ボックス内に荷物があるか否かを検出するセンサ 12d と、該センサが荷物を検出したときにボックスの扉を施錠する電気錠 12h と、カードリーダーによって読み取られたカードが指定された荷物受取人のカードであるときに電気錠を解錠するとともに、通信回線 TL を介して荷物預かり料金などの必要な情報をロッカーの管理センター A に送出する中央制御装置 12a とを備え、ロッカー 1 への荷物の預け入れと取り出しをカードのみによって行なうようにした。

【選択図】 図 1

特願 2000-266912

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[390005094]

1. 変更年月日 1993年 4月13日
 [変更理由] 住所変更
 住 所 大阪府大阪市天王寺区勝山1丁目1番25号
 氏 名 株式会社フルタイムシステム

2. 変更年月日 2000年 5月17日
 [変更理由] 住所変更
 住 所 東京都千代田区岩本町二丁目10番1号
 氏 名 株式会社フルタイムシステム